

入園當時の 躰について

まづ親しめ

お互に親しみを感じないでは教育は出来ない、親しみがあつてはじめて信頼が出来るのである、狭い家庭内にあつて親しい家族だけで生活して居た幼児が急に見も知らぬ幼稚園に来て生活するのであるから先生の方で餘程親しくしないといやになるのは當然である。二人や三人の子供ならばすぐ親しむ事が出来るが、三十人も四十人も一時に入園した時にすぐに親しませようとしても無理な話であるが、親しんで貰はねばそんな苦心もそんな厚意も通らないのである。子供と親しむには子供の爲を思ふ純粹な誠心が第一である。技術ではない誠心が通じなければそんな方法を講じてもだめである。誠心があれば入園式の前に先づ次の事は用意せずには居られない筈である。即ち、

姓名を記憶して置く事、名を呼ばれると親しみを感ずるものである。入園式の前に記憶して置いて顔と對照して覚えてしまはねばならぬ。出席簿を見て名を呼ばれたのでは

大和郷幼稚園
坂内ミツ

有難くない。遅くとも三日目からは出席簿なしで名が呼ばれなければならぬ。

家庭の状況を調査し記憶して置く事。子供の経験は誠に狭い其家庭内の事に話題を求めねばならぬのである。兄弟の話殊に赤ちゃんの話をするに子供は喜ぶのである。一人兒の人に兄さんの話なきをしたならば興が醒めるのである。

下駄箱、帽子かけ、整理戸棚の位置等をよく覚えて置いて登園の時親切に世話しなければならぬ。

子供の性質と親の心構へによつて、なつき易い子供となつき難い子供とがある、なつき難い子供をこそなつかせなければならぬのであるが、大勢を一人で扱はねばならぬ園では一人にばかり手をかけるわけに行かぬ。誠心をつくして迎へても、親切の限りをつくしても親しめない子供さんは幼稚園生活が出来ない人であるからむしろ家庭で生活した方がよい。お互に苦勞しても徒勞に終る事がある。け

れどもあまり早く諦めてはならない。急には親しめず自然に靜々近寄つて來る子供があるが此方が當然かと思ふ、あんなに苦勞しなくともよかつたに笑話の種子になる事が屢々ある、家庭も共力して本氣になれば親しめないといふ筈はないのである。

躑の内容

教育審議會で決定された幼稚園に關する要綱の第三項に「幼兒の保育に付ては其保健並に躑を重視し云々」があるが其内容は明記してない。幼稚園に於ける幼兒の生活は全部が躑であるといつてもよいのであるのに、躑といふに特に禮儀を正しくする事で表面に現はれた禮儀作法のみ解釋される嫌があるが、私共はそうは解釋したくない。從來も大に躑を重視して來たのであるが、知的方面のやうに效果がはつきり分りにくい爲めに充分注意しても外からは認められぬ事が多く、又保育者も當然の事として忘れられる事もないではない。其内容を分類して列記する事はむづかしい問題である。此所では入園當初特に注意すべき事だけを擧げるに留めて置く。

- 一、先生や友達に思ふ事を遠慮なく話す事。
- 一、友達と遊ぶ事——次第に共同生活にはいり得るやうに導く。

一、幼稚園の出入についての挨拶。

- 一、家庭に於ける挨拶。
- 一、便所に於ける作法。
- 一、鼻のかみ方。
- 一、食事についての作法。
- 一、遊具の使ひ方。

躑は常に

何事でも實行されなければ躑にならぬ、覺えただけでは躑にならぬ、そこがむづかしい處である。家庭の習慣は千差萬別といつてもよい位で躑方や家風が違つて居る、其異つた習慣に馴れた、氣質の違つた幼兒を一堂に集めて歩調を合せて生活させて行く事の困難さは想像以上である、しかも是等の事は實行して貰はねば秩序が保たれず納まりがつかないのである。はじめからキチンと整へる事を要求する事は出来ない、はじめから嚴格にキチンと躑けようとするれば幼兒の貴い自發活動性を失ひ、表面はよい習慣がついたやうでも形式的に形が整つただけで眞の躑ではないといふ恐れがある。前述の諸項は入園の當時から必要であるから早く躑けねばならないのであるが、一旦躑けたか後は注意しないでよいといふのではない。躑は常に注意して行かねばならぬ。躑の内容を保育案の上に書き現はし難いのは其爲めである。例へば食事の作法にしても大勢が一緒に食べはじめるといふ事さへも大した仕事である、食

前食後の挨拶やうがひの仕方、左右の歯でよく噛む事等躑けねばならぬ事が多い、是等を何時躑けたらよいのか、常に躑けて行かねばならず常に注意して行かねばならぬ。之れで修了したさいふ事はないわけである、前にも記したやうに氣質が違ひ習慣が違つて居る幼児を一樣に見てはならぬ。個人々々について常に注意して行かねばならぬ。

入園當時の幼児を見るに十人十色皆變つて居る。同じ年齢なのにこんなにも違ふものか驚かされる。それが團體生活をして居る内に次第に近づいて来る。即ち弱い子供はだん／＼強くなり、強過ぎる子供は目立たなくなる。友達に遊べない子供も盛んに遊ぶやうになり、大人つぼく屁理窟ばかりいつてる子供も何時か子供らしい無邪氣な子供となり、我まゝな子供も角がまれて来るので修了近くなる。其差は極めて小さくなるのである。之を見て或は型にはまつたに評されるかも知れぬが實際はそうでない。差異は小さくなつたが其間に充分に個性を發揮して居るのである。しかし幼児の個性さいふものは餘程注意して觀察しないに誤解し易いものださいふ事を忘れてはならない。人間の個性は複雑であるが或時には或一面きり現はれないものである。其一面だけを見て其人の個性を早合點するのは見る人の越權である。永く觀察して居ればかうした方面もあつた方面もあるさいふ事が出来るが、一日／＼を別々に考へ

たならば、今日は大變從順であるかと思へば明白は極めて強情である。其翌日は又變つて居る、一體それが本質であるか疑はるゝ時があるのである。一時間や二時間、甚だしきは三分や五分の間答によりて人柄が分る筈がない、分ると思ふのは分つた人の一人きめに過ぎないのである。此事は幼稚園の先生にはすぐに分つていたゞけると思ふ。

躑を見るための問答について

○「鼻が出た時にはどうしますか」紙を出してかんでごらんなさい」親の注意や日常の躑を見るには良い問ひ方である。處がさあ大變ポケットの無い洋服にエプロンをかきさせないので紙の入れ場が無い、今日は親から放れないと思つて子供に紙を持たせなかつた。子供は紙が無いのでモヂ／＼泣き出しそうになつた。親が答へては辨解になる。問はれた先生はさう判斷しさう採點されたのであらうか。

○「お菓子では何が好きですか」「甘いもの鹽からいものささちらが好きですか」「さお尋ねになつたから」「からいものが好き」「さいつたの、別の先生は羊羹を鹽せんべいを出されたらさちらを食べますのさ御き」になつたから私は羊羹を御返事したの、之を知つたお母様は心配で堪らない、からいものが好きさいつておいて羊羹が好きでは矛盾して居る、でたらめをいつたさお取りになつたに相違ないさいつて憂ひて居る、大人から見れば矛盾して居るが子供には甘

いもの、からいものさいふ概念的な言葉が分るであらうか、甘いものでも餡類は好きだが餡類は好かぬ子供もあれば、餡類が好き鹽せんが好き餡類は一切嫌ひさいふ子供もある。之はお話をする態度に重點を置かれるのか體質に重きを置くのか衛生に注意して居るかさうかを見るのかさう考へても見當がつかない。

○「お母様、先生が鉛筆トゴホンを持つていらつしやいさおつしやつたから向ふのお机に行つたら御本がないの、仕方がないので鉛筆を一本持つて來たの、そうしたら先生は五本ですよおつしやつたから後四本持つて來ましたよ」エンピツヲゴホンさいはれたのを聞き違へてエンピツトゴホンさ聞いたのに相違ない、トミチを聞き違へたばかりに五本さ御本を取り違つたのである。子供はさぞ不思議そうな顔をした事であらう。其態度は明朗さが缺けて居たに相違ない。檢定なさる先生はそこ迄氣がつかれたかさうか、知能指數百五十さいはれた子供だけに却て考へ過ぎたのかも知れない。

○甲「日本で一番偉い方はさなたかき聞かれたから僕天皇陛下さいつたよ、ネーお母さんさうでせう」乙「僕には人ではさなたが一番偉いかさ御聞きになつたから、近衛さんさいつたよ」甲「ばかだなあ君、天皇陛下が一番お偉いんぢやないか」乙「だつて天皇陛下は人ぢやいらつしやらない

よ」甲「ぢや何んだい神様か」乙「神様さは違ふけれど人さは違ふよ」國民教育の上に大きな問題が投げられたやうな氣がする。

中には「一本足で一番偉い方はさなたかき聞かれたがわからないから黙つて居た」さいつて居た子供もあつた、一本さ日本さ聞き違へたのは何かの錯覺かも知れない。しかし初めて逢つて初めて聞く聲である、聞き違へのある事はむしろ當然である。まして聞いて下さる先生の中にはお國訛が交つて居ないさも限らない。黙つて居たからさて不忠の臣さ斷定する事は出来ない。

以上の例でも考へさせられるやうに羨さいふ事は如何に書き現はしにくく如何に判斷しにくいかさ分るさ思ふ。而して幼児の生活全部が羨さ見てもよいのであるから、幼稚園の生活についてはいひあらはし難く書きあらはし難いのは無理のない事である。